

Ⅱ 子どもの発達援助

Ⅱ-1 子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場 ①健康安全で心地よい生活 ②子どもの主体的な生活 ③人との関わりを育む環境

	視点		評価の着眼点	評価			関係書類・具体的な取組事例
				1年度	2年度	3年度	
Ⅱ 子どもの発達援助	1 子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場	12	温度・湿度・採光・換気・音が常に適切に保たれている。	b	a		関係書類 ☐ 安全点検表 ☐ 遊びのルール ☐ 散歩の約束 ☐ 朝の電話連絡、内容把握、伝達状況 ☐ ミーティング時の連絡 ☐ 健康台帳 ☐ 健康カード ☐ 異年齢交流計画 ☐ 交流計画 その他 具体的な取組 ☐ ☐ ☐
		13	保育設備、遊具の安全が保たれている。	a	a		
		14	清掃が行われ、清潔が保たれている。	a	a		
		15	年齢に応じて、健康・安全な生活に必要な習慣や態度を育成している。	a	a		
		16	子どもの日々の健康状態の情報を関係職員（調理員、福祉員等）に周知している。	a	a		
		☆					
	◇子どもが自己選択・自己決定・自己活動できる環境を確保している。	17	子どもが遊具や用具、素材などを自分で取り出して遊べるようになっている。	c	b		
		18	子どもの年齢発達にふさわしい環境構成にしている。	a	a		
		19	子どもが好きな遊びを十分楽しめるよう柔軟性のある計画となっている。	b	a		
		20	保育者等は子どもの自発性を発揮できるような働きかけについて、共通理解のもと実践している。	b	a		
		☆					
	◇子どもが人とのやり取りを育む環境を構成している。	21	日常の保育を通じて子どもの意見や意思を汲み取る大切さを職員が共通理解し、実践している。	a	a		
		22	異年齢交流の計画を作成し実施している。	a	a		
		23	様々な年齢や異文化を持つ人たちに親しみを持つよう、交流の場を設けている。	b	b		
		☆					

Ⅱ-2 生活と発達の連続性 ①子ども観・発達観の理解と共有 ②発達過程に応じた保育 ③個人差への配慮 ④生活の連続性

	視点		評価の着眼点	評価			関係書類・具体的な取組事例
				1年度	2年度	3年度	
Ⅱ 子どもの発達援助	2 生活と発達の連続性	24	保育課程は全職員が参画し、発達過程の共通理解のもと作成している。	c	b		関係書類 ☐ 保育所保育指針 よこはまの保育 ☐ 保育課程 ☐ 指導計画 ☐ 年間、期、月毎の反省 ☐ 会議等記録 ☐ 保育経過記録 ☐ 長時間保育計画 ☐ 引継ぎ確認 ☐ 引き継ぎノート ☐ 年度末担任間の引き継ぎ記録 ☐ 保育要録 ☐ その他 具体的な取組 ☐ ☐ ☐
		25	乳幼児期は身体的条件や生育環境により一人一人の心身の発達の個人差が大きいことを理解し職員全体で共有する場を持っている。	a	a		
		26	指導計画は定期的に評価、見直しを会議等で行い共有している。	b	b		
		☆					
		27	長時間における保育の環境を整備し、保育の内容や方法を職員で共有している。	c	b		
		28	子どもの生活の連続性を踏まえ、保護者との連携・情報共有が行われている。	a	a		
		29	経過記録を活用し、進級児の申し送りは担任間で行っている。	a	a		
		30	小学校への移行が円滑に行われるよう、要録の送付等を行っている。	a	a		
		☆					

Ⅱ-3 養護と教育の一体的展開 ①主に乳児保育における ②主に1, 2歳児の保育における ③主に、3, 4, 5歳児の保育における

		視点		評価の着眼点	評価			具体的な取組事例・書類
					1年度	2年度	3年度	
Ⅱ 子どもの発達援助	3 養護と教育の一体的展開	◇保育における養護と教育の一体化がなされている。	31	「養護」は保育士などが行う援助や関わりであり、「教育」は子どもの活動がより豊かに展開されるための発達援助であることを理解し、実践している。	a	a		関係書類 ☐ 障害児保育計画 ☐ 障害児個人日誌 ☐ 障害児個人連絡帳 ☐ 巡回相談記録 ☐ その他
			32	「養護」は生命の保持と情緒の安定で構成され、「教育」は健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域から構成されていることを理解し、実践している。	a	a		
			33	指導計画や記録には養護面の配慮を記載している。	a	a		
			☆					
		◇配慮を必要とする子どもについて環境が整備され、保育の内容や方法を配慮している。	34	配慮を要する子どもや障害のある子どもについて、職員間で定期的に話し合う機会を設けている。	a	a		
	35		統合保育の意味や有益性を理解し、子どもたちがともに育つことを職員間で理解し、共有している。	a	b			
	36		配慮を要する子どもや障害のある子どもの対応やケアについて、必要に応じ研修を行い、医療機関や専門機関と連携している。	a	a			
	37		保護者と必要に応じて情報の共有をしている。	a	a			
	☆							

Ⅱ-4 環境を通して行う保育 ①保育の環境 ②環境構成・再構成

	視点		評価の着眼点	評価			具体的な取組事例・書類
				1年度	2年度	3年度	
Ⅱ 子どもの発達援助	4 環境を通して行う保育		38 保育は人的環境、物的環境、社会的環境、空間的環境を通して行われることを職員が理解している。	a	b		関係書類 ☐ 安全点検マニュアル ☐ おもちゃカタログ ☐ その他 具体的な取組 ☐ ☐ ☐
			39 保育姿勢の明確化を行い、職員間で共有している。	c	b		
			40 子どもが自分から思わず関わりたくなるような魅力ある環境構成をしている。	c	b		
			41 必要に応じてプライバシーが守られる空間を確保できるよう工夫をしている。	b	b		
			42 生活の場と遊びの場の区分ができ、生活に見通しが持てる空間となっている。	a	b		
			43 子どもが安全で保健的に過ごせる環境を作っている。	a	a		
			44 温かなくつろげる場と生き生きと活動できる場を作っている。	a	a		
			45 季節の移り変わりが感じられるような環境を構成している。	a	a		
			46 定期的に見直しを行い、子どもの発達、興味関心に合わせた環境構成をしている。	b	a		
			☆				
			◇環境を通して行う保育の重要性を職員間で共通理解している。				